

一般社団法人 公立大学協会


公立大学政策・評価研究センター 開所式

開始時刻までしばらくお待ちください

平成25年7月29日 17:00～
霞ヶ関ナレッジスクエア 交流カフェ


公立大学は現在83大学を数え、
地域の強い要請に応じた
特色ある教育・研究・地域貢献を
行っています。





地域の要請による新たな公立大学の設置
公立短大の四大への改組
大学の再編統合
学校法人からの設置者変更

5



これらにより、
83大学のうち、実に56大学が
大学改革を強く意識した
平成生まれの公立大学となっています。

6

一方で、公立大学は、
国と自治体、両行政の間で、
複雑な立ち位置に置かれています。

7

- 文部科学省には、公立大学の基盤的経費に対する予算がない。
- 自治体には、高等教育政策を包括的に扱う専門性がない。
- 大学支援機関、認証評価機関には、公立大学への正しい理解・関心がない。

8

このような状況にあることから
公立大学の質保証については
次のような検討課題が指摘されてきました。

9

■ 「認証評価」を受ける立場からの
評価のあり方への主体的な働きかけ

■ 公立大学法人評価への適切な対応策の
検討

■ 公立大学が相互に支援することによる、
質保証のためのコミュニティづくり

10

このような問題意識を踏まえ、平成22年度・矢田俊文会長は公立大学が独自に認証評価を検討する必要性を鋭く指摘。



11

引き継いだ、奥野武俊・23年度会長は東日本大震災への対応を行いながら、公立大学の質保証の課題について問題意識を持ち続け



24年度事業計画において
場合によっては、新たな認証評価機関を
立ち上げることも念頭に
評価の諸課題について検討すると宣言。

13

提案の背景には、公立大学特有の課題が。

公立大学への正確な理解を欠く認証評価
評価手数料の大幅値上げ
一部機関の認証評価からの撤退の懸念
公立大学法人評価の個別性・多様性

14

検討に先立ち、
「特別委員会」にて情報収集を開始。

同時に、合計4回の
「高等教育改革フォーラム」をはじめとする

数多くの議論の場を設定しました。

高等教育改革フォーラム等開催の経緯

5月
総会
問題提起

7月
第1回フォーラム
「公立大学にふさわしい
認証評価のあり方について」

9月
6つの地区協議会で
説明・協議

10月
第2回フォーラム
「法人評価と認証評価
の一体的運用」

11月、12月
学長会議・
事務局長等連絡協議会
にて協議

12月
第3回フォーラム
「大学ポートレート
と認証評価」

2月
評価担当者協議会
事務担当者が協議

2月
第4回フォーラム
「地域貢献機能の充実
とその評価」

5月
総会・分科会
「認証評価の今後の
展望について」



フォーラムで事例報告を行う、近藤倫明副会長¹⁷



評価機関や専門家も交え、活発な議論を展開¹⁸

評価の思い切った簡素化(フォーラムでの検討例)

基準例:

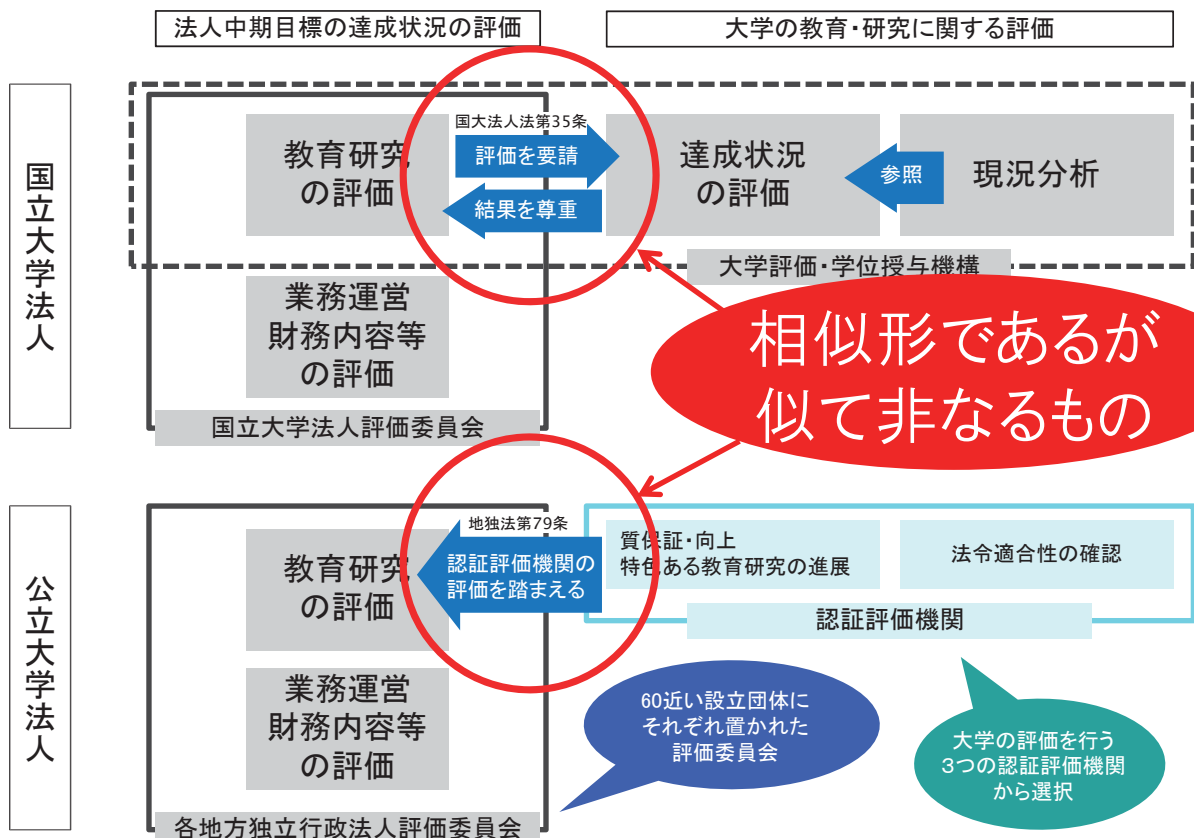
大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

		自己評価	優れた点 改善を要する点	公立大学法人等における 目標設定等の評価等	エビデンス (リンク集)
大学が独自に設定する評価項目	個別活動に関する項目	① ○○学科の教育における地域貢献の役割			
		② 学部生対象「副専攻」の取組み			
		③			
項目					

教育情報の徹底公表を前提とし
1評価基準に対し
A3版1枚で一覧

自己点検評価
法人評価
エビデンスを
相互参照

法人評価と認証評価の関係整理(フォーラムでの検討例)



フォーラムで得られた方向性を小論に整理し、

- ① 大学と評価機関のすれ違いの克服
- ② 認証評価の思い切った簡素化の提案
- ③ 法人評価と認証評価の積極的整理

それに対し、認証評価機関や国からは、真剣な反応を得ました。

そして…

21

平成25年度、5月の定時総会において
木苗直秀新会長の他、新執行部が選ばれ、
24年度を引き継いだ基本方針を発表。



平成25年度 3つの基本目標

基本目標	方向性
1 地域社会と公立大学の創造的な連携をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> (1)大学の地域の知の拠点(COC)事業について、国や地方公共団体に対し積極的な提案を行う。 (2)COC機能に応じた教育カリキュラムなど、必要な方法論についての検討を行う。
2 公立大学の機能充実のための検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> (1)「公立大学政策・評価研究センター」を設置し、公立大学に関する政策や、法人評価・認証評価の課題について調査・研究する。 (2)フォーラムやワークショップの開催を通じて、会員校間の交流を密にし、公立大学のコミュニティを創る。
3 公立大学の学生とともに教育改革を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> (1)平成24年度の学長会議で生まれた学生ネットワークを引き続き支援し、学長会議の際に合同のシンポジウム等を開催する。 (2)学生が大学COC機能の一翼を担えるような取り組みや、学生による大学改革(例:FD活動)への参画を支援する。

3

「公立大学政策・評価研究センター」が木苗直秀・運営委員長の指導のもと浅田尚紀・センター長を中心に評価の課題について検討を進めます。



センターの当面の取組み①

「大学評価ワークショップ」で
新たな評価の方法論について
トライ・アンド・エラー

25

センターは
「大学評価ワークショップ」を試行し

認証評価・法人評価に活用できる
外部評価としての

「大学ピアレビュー」のモデルを作成します。

26

このワークショップに携わる経験を通して、
大学評価や内部質保証を担う人材を
各公立大学は強化します。

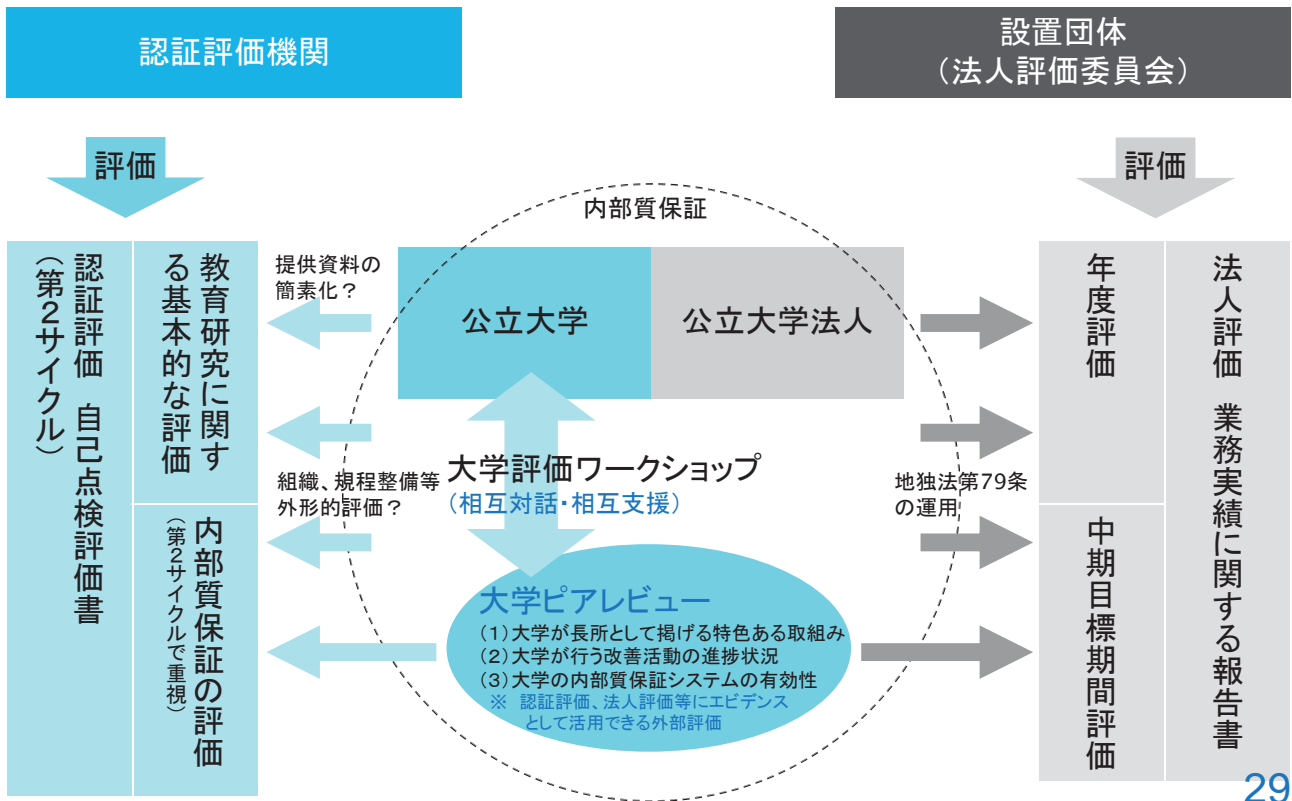
27

「大学評価ワークショップ」評価項目(支援項目)

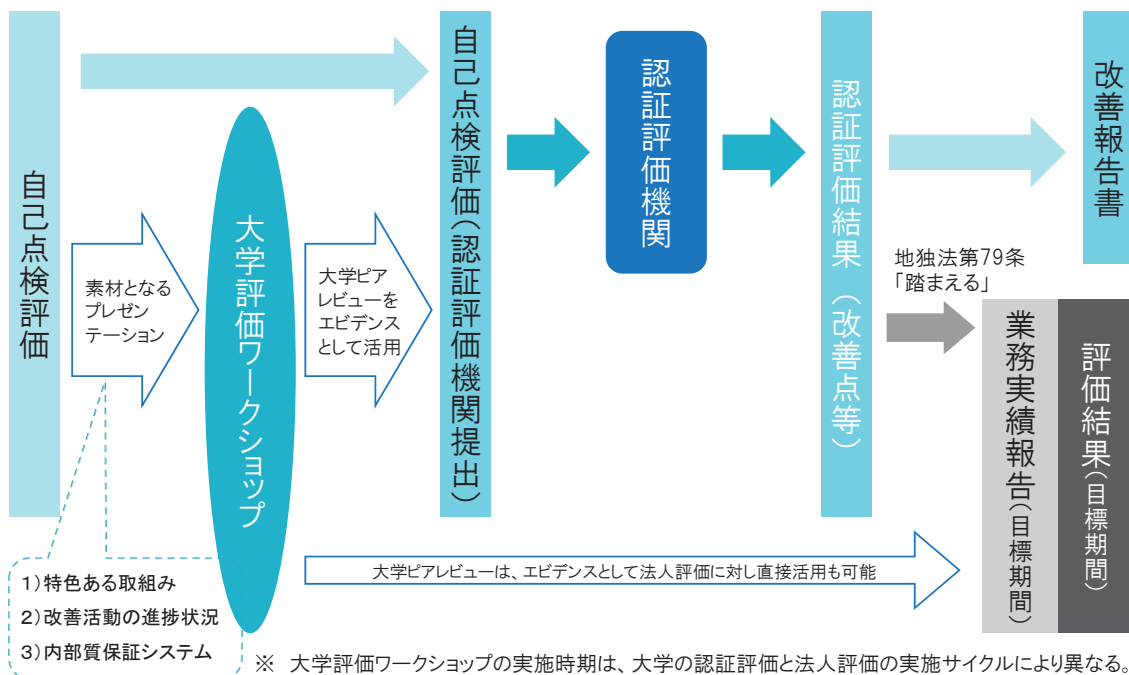
- 1 大学の特色ある取組み
(長所の発見とさらなる向上策の検討)
- 2 各種評価結果の指摘を受けた改善活動
(課題発見と改善策の検討)
- 3 内部質保証システムの機能
(内部質保証に関する方法論のディスカッション)
- 4 大学評価ワークショップ自体の評価
(自由な対話を通じて評価実績の蓄積)

28

大学評価ワークショップは外部評価「大学ピアレビュー」を提供



大学評価ワークショップと他評価との実施フロー例



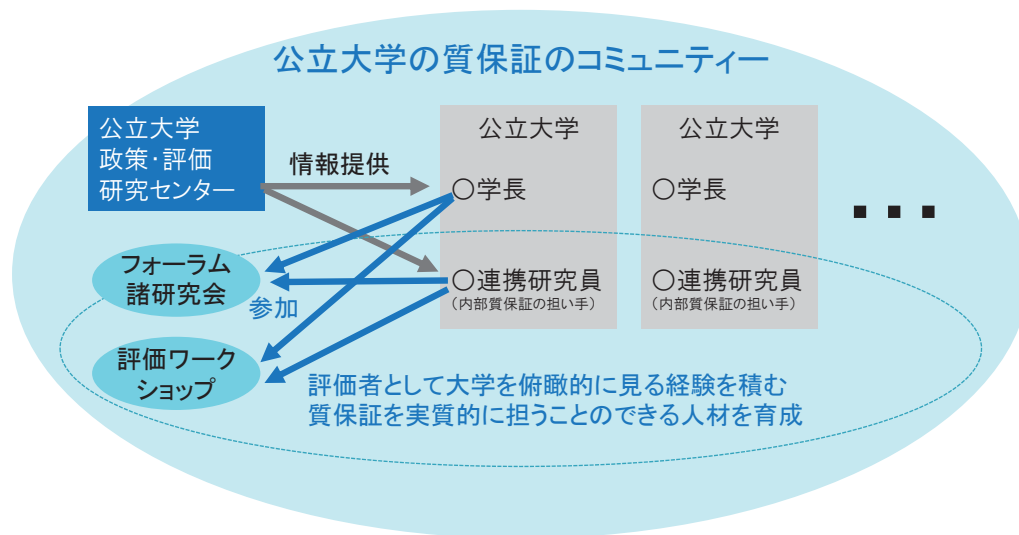
連携研究員

●「連携研究員」とは

センターの行う活動にボランティアに参加する会員校の協力者。評価の取組み・情報に触れる機会を共に作り、公立大学の質保証のコミュニティーの核となる存在。

●「連携研究員」の役割

- ① センターの情報のキャッチ(センターからの情報は「連携研究員」にも直接お届けします)
- ② センターの研究活動(研修会などのイベント、テーマを決めた研究会)への積極的参加(その都度、意向を確認)



31

センターの当面の取組み②

その他、
公立大学法人評価に関する情報を収集し、

法人評価のあり方に関して参考とする
「資料」を作成するなど

3年程度で今後の活動の方向性を探ります。

32



最後に少しだけ、
最近移転した新事務局と、
併設した
公立大学政策・評価研究センターを
ご紹介します。

33



建設中の
「虎ノ門ヒルズ」を望む
ここに入居している
わけではありません
念のため…

34



この建物です
郵政福祉虎ノ門第二ビル
1979年竣工(築34年)

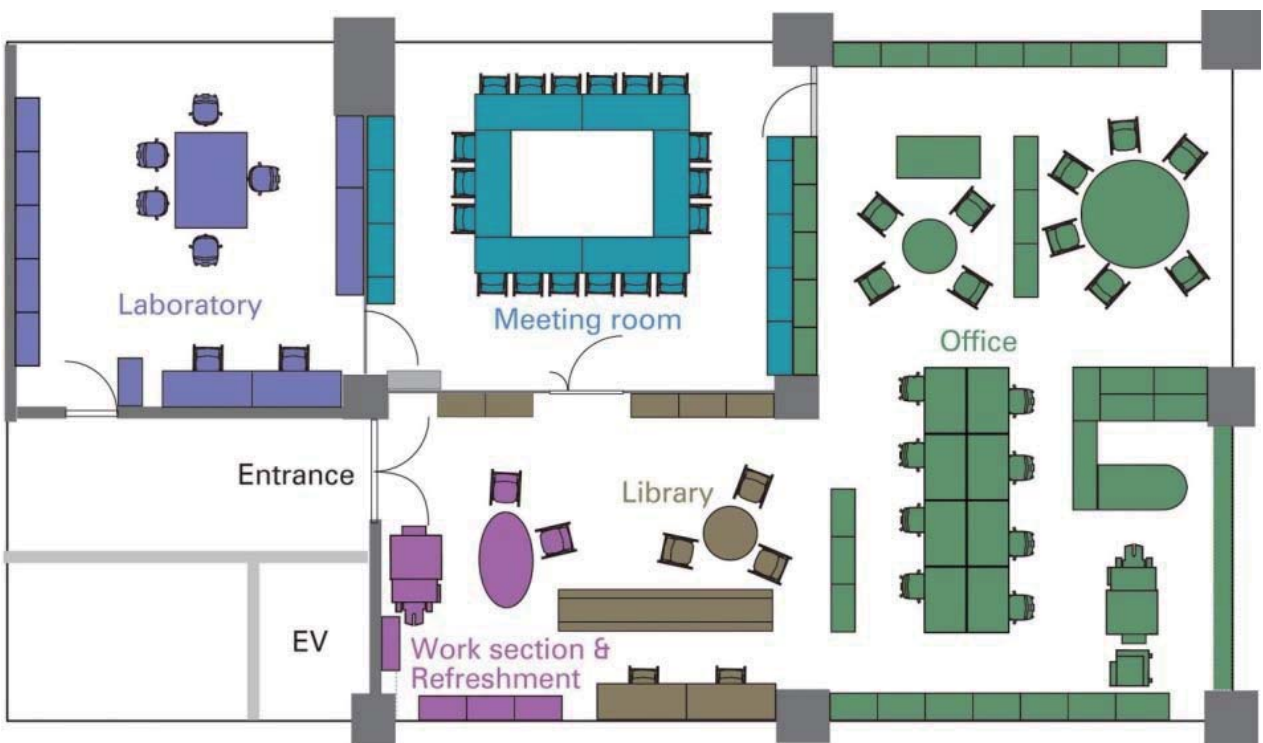


手作り看板が
お出迎え
いたします。

公立大学協会



このようなフロアが展開しています…





くつろぎ「コモンズ」の
向こうに、事務スペース



少数精鋭！の
スタッフ



とは言え、やや散らかり気味…



ミーティングルームでは
各種委員会などを開催

時には
このような形でも
活用できます



43



公立大学政策・
評価研究センターの
小さなラボラトリー



センターの
作戦会議は
ラボラトリーを使用



1Fに貸し会議室があり、
会議や勉強会で活用しています。

お待ちしております。
それでは、これから

一般社団法人 公立大学協会
公立大学政策・評価研究センター

開所式を開会いたします。

